

教育理念	学ぶ楽しさを知り、自ら学ぶ力と豊かな人間性を身につける
目標(テーマ)	・基礎学力を再生して(学力回復教育)高校を卒業 ・学ぶ楽しさを体験する科学的授業で、生涯を学び人に ・自覚めよ！自自力。早期にやりたいことにチャレンジ ・目標の実現をサポートする教育システムの提供

※評価基準…A:達成できている B:どちらかと言えば達成できている。 C:どちらかと言えば不十分である。 D:不十分である。

分類	評価の観点	評価項目	具体的な評価項目	評価	評価の観点と理由	改善策
学校運営	教育課程	学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に沿っており、その編成・実施の考え方について、教職員間で共有ができています。	A	面接授業においては、どの授業にも担当教員以外の先生をフォローに入れる体制をとるようにした。それにより、授業についていけない生徒にも個別に対応できるようになり、授業に取り組む姿勢が向上した。 生徒によって学力には差があるが、各地でレポートフォロー(指導)を関係し、学習内容の理解、レポートの提出向上に努めた。 基礎学力の向上が引き続きの課題であるが、レポート動向については、NHK高校講座の動画を取り入れ、信頼性も高く、取り組みやすいものに変えていった。それにより、レポート提出率は同時期で10%以上向上した。	入学時の学力差が大きいのが現状であるが、個々の生徒に合った教材の提供を行う体制を作っていく必要がある。 次年度は、リクルートマーケティングパートナーズの提供している「スタディサプリ」を導入し、アダプティブラーニングを実現できる環境を整えていく計画である。 一方、NHK動画導入で、提供内容の信頼性は向上されたが、自校教員によるレポート動画についてもオリジナルを出すようにも考えていきたい。
		教育目標	生徒の学力・体調面など、個々の状況に応じた支援・指導を行っている。	B		
	教職員連携	組織運営	本部及び本校の校務分掌や主任体制などが適切に機能するなど、学校の運営・責任体制が整備されている。	A	昨年度まで、一部東京本部で行っていた業務を、全て学校で行う体制に変更した。 それにより、対生徒にかかわる業務は、全て学校で行うことができるようになり、情報共有が迅速且つ適切に行われる仕組みができた。	教員間、事務職員間の連携・情報共有の為、職員会議やスクーリング会議はさらに質の高いものにしていく。 入学相談担当と面接授業担当の教職員が情報交換をしっかりと取り、スムーズな学習スタートができるよう体制を整える。
		教員・教科間連携状況	教職員間の相互理解がなされ、共有及び信頼関係が構築され、教育活動が行われている。	A	会議については、スクーリング連絡会を兼ねた職員会議は継続して行っている。 本頻度としては、月に3回～4回。そこで、生徒対応や連絡関係の連絡等、生徒個々が担任によって情報の格差が生じないようにしている。	
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解及び連携がとれている。	A	その他、教務担当、保健担当、卒業式担当等、それぞれ担当別に打ち合わせを適宜行い、教員、事務長に報告し、実行する体制をしっかりと取り取ることができている。	
		会議の有効性	職員会議・スクーリング会議などの共通認識・共通理解のもと、有効かつ効率的に機能している。	A	個別の教員からの相談については、学習、生活面は教員の牛山先生が対応、学費や入学関係の相談については台野が対応している。	
	財務関係	学校経営の安定性	経営・財務が安定し、十分な教育活動を行うことができる。	B	当校単体、グループ校合計ともに、業務の効率化、経費の削減により単年度黒字経営であった。	生徒が取り組みやすい教育コンテンツの開発や導入、部活動の促進等、教育活動への投資を進めていく。 定期的に、管理部門責任者による説明会の機会を設け、理解を促す体制を作っていく。
		財務に関する意識	経営指標と財務状況について理解している。	B	今年度も学校運営責任者による財務状況の説明を職員に行っている。 予算、決算の収支状況については、職員会議や個別面談にて事務長より伝達を行っている。	
		財務状況の把握	予算・決算の収支状況に関して理解している。	C		
	危機管理	役割分担	事故・事件・災害などに対する連携及び役割分担が明確になっている。	B	関係各所(警察・消防・学校医など)の連携はとれている。また事故、事件、災害時の校内体制も整っている。 昨年度同様、緊急対応について大きな問題はなかった。	危機管理意識や報告体制を高めるよう、定期的に職員間で話し合いを行っていく。
		安全管理	学校内の安全点検管理及び諸活動が実施されている。	B		
		危機管理対応状況	危機管理マニュアルに基づき、市役所、警察、消防と連携するなど、安全対策がとれている。	A	個人情報については、昨年度プライバシーマークの更新も無事に完了しました。 引き続き情報漏洩防止の為、職員に危機意識を高めるアクションを行っていききたい。	
個人情報管理		生徒情報管理が適切に行われている。	A			
施設・設備	施設・設備の状況	教育活動に必要な設備・備品を整えている。	A	開校から4年が過ぎ、授業に必要な備品は概ね揃っている。その為、今年度から本格的に始めた部活動への投資を積極的に行った。	生徒に少しでも満足してもらえるよう、必要なものには積極的に投資をするよう努める。	
渉外	生徒募集	学校説明会の実施や学校案内パンフレットなど、効率的な広報に工夫・充実させる。	B	今年度は9月に職員ほぼ全員で、県内中学校や高校への訪問を行い認知度向上のための活動を行った。 また、定期的な学校説明会はもちろんのこと、入学を検討している生徒と保護者に学校を訪問して頂く(スツアーム2回開催)。 毎回70名前後の方に参加して頂き、バス2台が満席になるほどの盛況であった。	尾張地区、岐阜、静岡西部の生徒にいかにか認知してもらおうかが課題である。学校訪問を積極的に行い、認知を広げていきたい。	
	各教育機関との連携	市町村教育機関への訪問や県私学連絡協議会加盟校と連携した広報活動をしている。	B	今年度は3月の卒業生が多かった影響で、生徒は減少することになったが、来年度以降は再び生徒が増加する見込み。		
教育内容・支援	面接指導・添削指導等	スクーリング参加状況	年間スクーリング日程計画に基づいた参加促進を行う。	A	昨年度の懸案であったレポート動画については、NHK高校講座を購入し、オンデマンドで生徒に提供できるようにした。 NHK高校講座は1単元20分と集中力の持続する時間に設定されており、出演者も有名な俳優等を活用している。今までよりも取り組みやすい動画授業となり、レポートの提出率は向上した。	スクーリングの設定が多く、参加人数が少ないスクーリングが散見された。一回当たりの参加人数を30名以上にはできるように、設定の工夫が必要である。
		スクーリング内容(面接授業)	各科目担当者が創意工夫を行い、生徒の興味・関心・意欲が高められる授業を展開していく。	A	スクーリングの内容については、学ぶ楽しさ、発見する喜びを知ってもらうことを意識した面接授業を行っている。	
		レポート内容・添削	レポートが学習成果(興味・意欲・関心)につながる内容になっている。また、インターネットを活用した添削結果の遅延がないよう、計画的な業務を行っている。	B		
	情報発信	ネット回線の有効活用	本校独自でネット開設している「マイページ(通称)」にて、タイムリーな情報提供を行っている。	A	学校独自のネット開設(通称:マイページ)により、学校イベントなどの情報提供を行っている。昨年同様NSの有効活用により、学校行事の様子を発信する体制をさらに強化した。 また、今年度からは、保護者向け情報提供ツールとして、保護者用にもマイページを導入。 生徒のレポート進捗状況や、学校行事についていつでも見て頂ける仕組みを整えた。	保護者マイページについては、定期的に閲覧してもらえるよう、働きかけが必要である。保護者に向けては紙ベースで合わせて発信し続けていくことも必要である。
		個人に対する効果的な情報提供	本校独自でネット開設している「マイページ(通称)」にて、生徒個々の学習進捗が確認できる。	B		
	情報教育	情報能力知識	各種活用能力の知識を向上させる。	A	学習ツールとしてタブレットを導入しており、情報機器、情報収集についての知識は身につけている。 SNS活用や携帯ゲームの危険性については、担任から生徒に入学や進級のタイミング、また、生徒の生活状況に合わせて話をするように努めている。	SNSから発展する事故や事件の可能性が高まっている。引き続きトラブルの事例をマイページに掲載する等、知識をより向上させる活動が必要である。
情報モラル指導		情報発信・公開に伴う責任など情報モラルの教育に取組む。	B			
生徒・進路・保健指導	生徒指導	指導方針の一貫性	指導方針に従い、生徒及び保護者の満足度(進級卒業・進路決定など)を高める。	B	課題であったスクーリング以外での生徒フォローを、レポート会を実施することにより行っている。 今年度、実施予定であった3者面談は体系的には行うことができなかったが、要望に応じて個別に対応していくことはできた。 来年度は、組織的にスクーリング以外の生徒対応をしっかりと強化していきたい。	定期的に主要都市でレポート会を行う等、教員と生徒が対面でコミュニケーションを整えることができる環境を来年度は体系的に整えていく。 また保護者を含めた3者面談の機会を今年度は実施していく。
		生活指導について	学校組織に基づき、生徒が安全に諸活動ができるよう共通認識にて運営していく。	B		
		家庭との連携状況	計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活が送れるよう支援していく。	B	進路や生徒指導面においては、それぞれ主事を中心に、対応を行っている。	
	進路指導	キャリア教育について	キャリア教育(進路指導)に取組む体制が整備され、生徒の自立に向けた取組みが実践されている。	A	進路指導主事を中心に、希望進路実現(進学・就職)に向け、SL時に面談を行い早期に方向性を固め動くよう努めている。また就職についても、各地のハローワークとの連携、愛知県においてはヤングジョブ愛知にも支援をして頂き、職業相談、面接練習等、就職に向け	早期に目標を設定してもらい、進路の意識を高めてもらう必要がある。スクーリング時の進路相談での担任からのアプローチを徹底させていく。
保健指導	健康の保持増進について	心身ともに健康であるための支援(定期連絡やスクーリング時における授業にて支援)	B	担任による定期的な連絡で、状況の把握を行い、必要に応じて適宜支援を行う。 またスクーリング時には事前健康調査を実施。気になる点があれば、保護者を呼び相談に乗るようになっている。	日常的な状況確認が課題である。 保護者から、気軽に連絡してもらえるよう、保護者専用の問い合わせフォームの設置を検討したい。	
その他	教職員研修	資質向上	教職員間で職務内容(生徒対応など)を把握し、意見交換などを行う機会を設定している。	A	今年度は課題であった姉妹校へのスクーリング参加を行った(教諭6名)。グループ校の状況を把握することは、自身の生徒対応や教科指導を見直す上で大変良い機会となりました。 また、外部講師を招いてコーチング研修を行い、生徒との対話方法について研修を行いました。	内部での情報交換は比較的实施できるようになったが、外部研修への参加は、まだまだ少ない。 教員一人一人のスキルアップの為、管理職を含め、自己啓発をする体制を整えたい。
		研修の充実(校内・校外)	教職員が計画的に校内研修に参加できる習慣や体制が整備されている。	B		
		他校及び関係機関との連携	姉妹校との連携を深め、通信制高校としての在り方などの情報交換を行い、学校全体としての向上を高める。	A		
	地域との連携	地域への貢献	地域行事への参加、経済的貢献	A	秋祭りへの参加、草刈り業務を自治体に委託、イベント練習会場の提供を行った。 経済貢献においては、地元の業者や施設を積極的に活用した。 今年度は9月に文化祭を駅前キャンパスで行い、地元の方にも多数来校して頂いた。 来年度は、難関でもできれば実施し、地域の方との交流を深めていきたい。	地域との交流がまだまだ少ないのが実態である。 地域の方に対するボランティア活動、イベント開催等、地域と一体となった活動を模索していく。

校長 教頭 事務長  
